
中期計画 2029

2025 年度（令和 7 年度）～ 2029 年度（令和 11 年度）



学校法人

千葉敬愛学園

目 次

I. はじめに	1
II. 本学園の取組	3
計画体系図	3
建学の精神 「敬天愛人」	4
敬愛ビジョン 2030	4
中期計画 2029	5
中期計画 2029 の概要	6
III. 中期計画 2029	8
1. 敬愛大学	9
2. 敬愛短期大学	14
3. 千葉敬愛高等学校	19
4. 敬愛学園高等学校	22
5. 認定こども園敬愛短期大学附属幼稚園	25
6. 学校法人部門	27
IV. 中期計画'24 の取組の成果	30

I. はじめに

= 学校法人を取り巻く経営環境 =

我が国の学校法人を取り巻く経営環境は、少子化の進行、経済の変動、教育改革、技術革新など、多くの要因によって厳しさを増しており、学生や生徒から選ばれるための教育の改革、学校法人を存続していくための組織の強化、経営の透明性の向上が求められています。

経営環境の変化において著しい点は、人口の減少に伴う学生・生徒の確保の困難化です。2024年度（令和6年度）の日本私立学校振興・共済事業団の調査では、入学定員を充足できていない学校の割合は、大学が59.2%、短期大学が91.5%となっています。厚生労働省の発表によると、2023年（令和5年）の全国の出生数は約72万人となり、さらに漸減することは確実な状況と予想されています。このような中、2025年（令和7年）4月に施行される改正私立学校法では、組織の強化や経営の透明性の向上の必要性が示されました。理事・理事会、監事及び評議員・評議員会の権限分配の整理、建設的な協働と相互牽制による組織ガバナンスの強化が求められています。経営環境の変化や社会的要求に対応するため、経営基盤の安定性や組織の持続性を高めることが、今日の学校法人に課せられた責任であり使命です。

学校法人千葉敬愛学園（以下「本学園」という。）は、教育の質の向上、地域社会が抱える課題解決への貢献、グローバル人材の育成など、多くの社会的要求に応えることが本学園に課せられた責任であり使命でもあるとの認識に立って、教育力をさらに高度化するとともに、経営基盤の安定化を図り、組織の持続性を高めていきます。

= 本学園を取り巻く経営環境 =

一般的な教育機関に共通する社会的要因に加えて、千葉県の地域的な要因や本学園に特有な要因に対する柔軟な対応と大胆な改革が必要です。本学園では、以下に挙げる事柄を直面する主な経営課題と捉えて、課題解決に取り組んでいきます。

1. 少子化と人口減少の影響

日本全体で出生率が低下し、少子化が進んでいます。このことは学校法人にとって最大の経営課題です。特に地方では学生等数の減少が顕著であり、学校法人の存続自体が危ぶまれる状況となっています。千葉県は三大都市圏とはいえ、少子化の影響から逃れることは難しい状況です。

2. 教育市場の競争の激化

少子化による学生等数の減少により、千葉県における学校法人同士の競争が激化しています。敬愛大学においては、千葉県内の受験生の東京都内有名私立大学への入学志向が高いことも大きな脅威となっています。本学園も、特色ある教育プログラムの提供、施設・設備等の教育環境の向上等をアピールして学生等を確保する必要があります。

3. 教育改革とデジタル化

国の施策等により教育改革が進行しており、ICT教育の推進等に対応することが求められています。本学園もこれに対応するために、教員のスキル向上やデジタル機器の導入等のインフラ整備が必要であり、新たな財政負担が増加します。

4. 学生・生徒や保護者、社会からの教育の品質への要求の高まり

私学に在学する学生等の保護者は、高い学費に見合う質の高い教育とサポートを期待します。また、学力の向上に加えて、社会性やリーダーシップの育成といった、より実践的で多様なスキルを身に付ける教育を求めています。これに対応するため、教育の質を高め、進学・就職の実績を確保することが経営の要となります。

5. 地域との連携

本学園は地域社会と密接に連携することで、地域からの評価を得ることによって経営に良い影響をもたらすことが可能です。地域連携活動やボランティア活動を通じて、本学園の認知度や信頼を高めることが重要です。

6. 労働環境の問題

教職員の労働環境も重要な課題です。労働時間や待遇に関する課題の存在は教職員の質やモチベーションに影響を与える可能性があります。労働環境の改善や教職員のキャリア支援に取り組む必要がありますが、これもまた財政的な負担を伴います。

7. 財政基盤の安定化

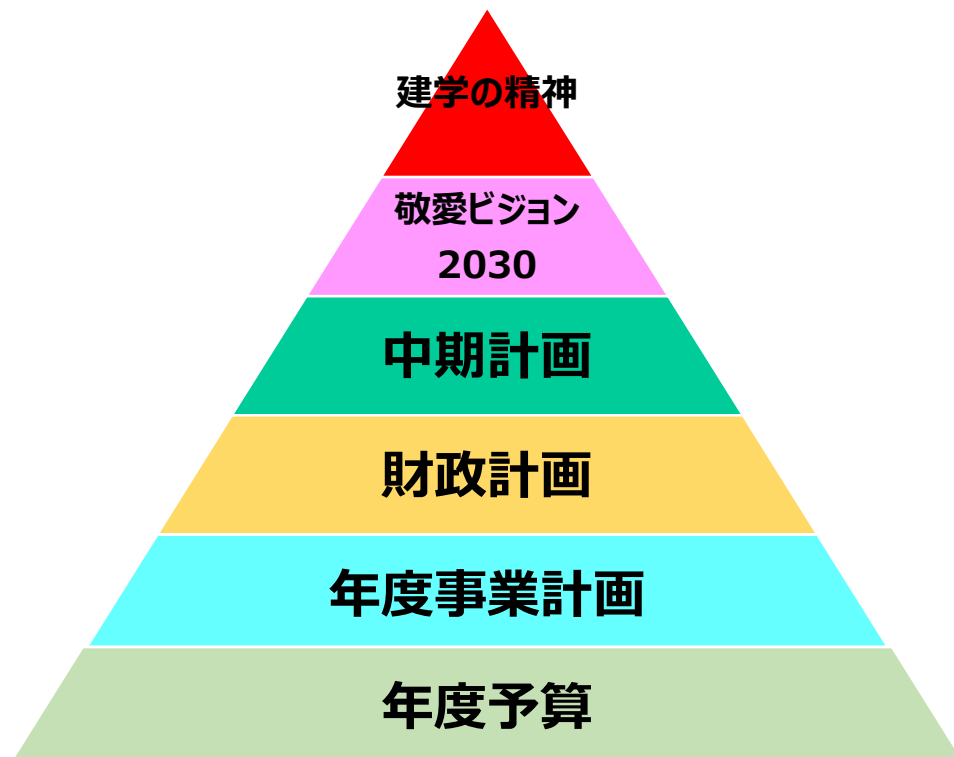
多くの学校法人がそうであるように、本学園においても学納金が主な収入源であり、学生等数の減少が直接経営に響きます。さらに設備投資や教職員の人件費等が増加する一方で、学納金の値上げも限界があり、経営が不安定化するリスクが高まっています。

「中期計画 2029」は、これらの経営課題の存在を認識して策定しました。本学園は、「中期計画 2029」に掲げた取組を実現し、現代の教育環境に適応しつつ、地域に根ざした教育機関としての強みを活かして、経営を持続可能なものにしていきます。

Ⅱ. 本学園の取組

計画体系図

本学園は、建学の精神である「敬天愛人」を教育の支柱としています。この理念の下、学園全体と各設置校が2030年度までに目指すべき姿を明確にした「敬愛ビジョン2030」を2020年3月に策定しました。また、ビジョンを実現するための中期的な計画として、5か年の「中期計画」、その財政的な裏付けとなる5か年の「財政計画」を策定しています。さらに、各事業年度の教育研究活動や経営の具体的な行動計画は「年度事業計画」に落とし込み、「年度予算」を編成して、適切な予算執行によって経営の安定化を図っています。



建学の精神 「敬天愛人」

「敬天愛人」が本学園の建学の精神です。「敬愛」という校名の由来も、そこから来ています。

「敬天愛人」は西郷隆盛（南洲）の座右の銘とされ、西郷の言葉を編纂した『南洲翁遺訓』には「道は天地自然の物にして、人は之を行うものなれば、天を敬するを目的とす。天は人も我も同一に愛し給うゆえ、我を愛する心を以って人を愛する也」とあります。

わが学園の創立者の長戸路政司先生は、この「敬天愛人」を教育的に捉え直し、「敬天愛人教育」の理念を「天地自然によって生み出され、生かされて生きていく者は、一人の例外もなく、誰もが天から与えられた人間の尊厳性と、人間として成長する無限の可能性を秘めている。これを最大限に伸ばして実現化させることこそ教育の基本である。また、教育する者が、教育される側の学生・生徒・園児の一人一人を心底から敬愛することである。」としています。

本学園は誕生以来、一世紀にわたって「敬天愛人教育」を守り、心豊かな人間教育を目指してきました。その伝統は、これからの21世紀の未知の世界でますます大きな価値を発揮するものと確信しています。

敬愛ビジョン2030

本学園は、2026年（令和8年）に学園創立100周年を迎えます。本学園が学園創立100周年を迎えて、建学の精神を実現し、次の100年に向かって更に発展を続けていくためには、社会の様々な変化に柔軟に対応し、ステークホルダーから選ばれる魅力的な教育機関となることが求められます。これを実現するため、学園全体と各設置校が2030年度までに目指すべき姿を明確にした「敬愛ビジョン2030」を2020年3月に策定しました。

この「敬愛ビジョン2030」は、以下の5つの柱で構成されています。

1. 選ばれる学校づくり ～個性と特色のある教育機関となる～
2. 新たな学びの創造 ～教育の質的転換と教育力の向上を図る～
3. オール敬愛による学園づくり ～新たな総合学園を共創する～
4. 地域の伴走者 ～地域との関わりを重視し、地域に愛される学園運営をする～
5. 学園の永続のために ～安定的な財政基盤を確立し、効率的な管理運営を行う～

教育の質を向上させること、学生・生徒・園児のサポートを強化すること、地域社会との連携を深めること、さらには安定的な財政基盤を確立することを目指しています。

中期計画 2029

「中期計画 2029」は、2025年度（令和7年度）から2029年度（令和11年度）までの5か年の本学園の取組をまとめた経営計画です。

「中期計画 2029」は以下のとおり、8の「取組分野」に88の計画で構成しています。取組分野「01 広報・募集活動」では、広報および募集活動の質的向上による学生等の確保、取組分野「02 教育」では、学習者本位の教育の高度化による学生等の付加価値向上、取組分野「03 就職・進路・学生等支援」では、個別最適化した学生等支援・キャリア教育の推進、取組分野「04 研究」では、特色ある研究の活性化、取組分野「05 地域連携・社会貢献」では、地域における連携強化と学園資源の積極的活用、取組分野「06 人と組織」では、働く者が成長し、それを活かせる組織作り、取組分野「07 財務・施設設備」では、教育研究活動の高度化・活性化への財政的対応と経営基盤の強化、取組分野「08 学園創立100周年」では、学園創立100周年に向けた各種記念事業の展開に係る計画を盛り込んでいます。計画の取組状況を客観的な視点で自己点検評価し、毎年度の評価結果をもとに改善を進めていきます。

「中期計画 2029」は、各設置校の代表者で構成するワーキングチームを立ち上げ、教職員の意見を反映させながら、常務理事会等での検討を重ねて策定しました。2025年3月27日の評議員会で意見を聴いたうえで、同日の理事会において承認されました。本学園のホームページで、「敬愛ビジョン2030」と「学校法人千葉敬愛学園ガバナンス・コード」とともに公表しています。

中期計画 2029の概要

中期計画 2029 概要図 = 8つの「取組分野」と主な計画 =

01 広報・募集活動

広報及び募集活動の質的向上による学生等の確保

◆主な計画

1. 大学・短大の入試制度と親和性の高い受験生等に対する情報発信力の強化
2. 高校訪問、オープンキャンパス、学校説明会等の募集活動の再構築
3. 情報発信ツールの活用による広報活動の強化
4. 修学・学生支援等の取組強化による収容定員の充足
5. 適正な志願者・入学者の安定的な確保
6. 内部進学者の確保に向けた系列校との連携強化

02 教育

学習者本位の教育の高度化による学生等の付加価値向上

◆主な計画

1. 建学の精神「敬天愛人」に基づく自校教育の推進
2. 学習成果の可視化を基軸に据えた内部質保証の実質化
3. AIを活用できる人材の養成を目指した学部等改革による特色・魅力ある学部教育の推進
4. 入学前教育と初年次教育、ゼミ教育等の特色を活かした教育の展開
5. ICTの活用等による授業運営力の向上
6. 教育活動を通じたSDGs（持続可能な開発目標）の達成に貢献する人材育成

03 就職・進路・学生等支援

個別最適化した学生等支援・キャリア教育の推進

◆主な計画

1. 学生等へのきめ細やかな支援と支援体制の整備
2. 教育で身に付けた能力の可視化
3. 学生に対する経済的支援の拡充
4. 学生生活を安心・安全に過ごせるための支援体制の改善
5. 生徒の進路実現を目指したきめ細やかな指導

04 研究

特色ある研究の活性化

◆主な計画

1. 研究活動支援体制の整備による外部資金獲得実績の向上
2. 社会実装（実用化）を通じた研究成果の地域還元

05 地域連携・社会貢献

地域における連携強化と学園資源の積極的活用

◆主な計画

1. 地域連携を推進する能力を備えた人材育成
2. 地域との交流拠点を想定した組織の機能強化

06 人と組織

働く者が成長し、それを活かせる組織作り

◆主な計画

1. 組織ガバナンスの強化
2. ステークホルダー本位の情報公表
3. 能力の向上と教職協働推進のための様々な仕組みの構築
4. 教職員が活躍する働きやすい組織作り
5. 防災・危機管理体制の整備

07 財務・施設設備

教育研究活動の高度化・活性化への財政的対応と
経営基盤の強化

◆主な計画

1. 基幹収入（学納金、補助金等）の安定的確保方策の確立
2. 学校法人の基本金組入前当年度収支差額及び経常収支差額の毎年度黒字化
3. 設置校の経常収支差額の毎年度黒字化
4. 将来的な設備投資に備えた資金備蓄
5. 稲毛キャンパス整備事業の推進

08 学園創立100周年

学園創立100周年に向けた各種記念事業の展開

◆主な計画

1. 寄付金の募金目標額の達成
2. 記念式典等の記念事業の実施

Ⅲ. 中期計画 2029

1. 敬愛大学

01 広報・募集活動

本学において学生の確保は喫緊の課題である。一定数以上の志願者・入学者を確保するため、広報及び募集活動の質的向上と、学生の安定的な確保に取り組み、受験生をはじめとするステークホルダーから選ばれる大学となることを目指す。

計 画

I. 広報及び募集活動の質的向上

1. 本学の入試制度と親和性の高い受験生とその関係者に対する情報発信力を高める。
2. 本学への理解浸透度が低いと思われる保護者、理系志向の受験生、女子の受験生、高校教員への効果的な広報活動を実施する。
3. 高校訪問、オープンキャンパス、模擬授業、学校説明会等の募集活動の再構築を図る。

II. 学生の安定的な確保

1. 年内入試を重視した制度改革を行い、一定数以上の志願者・入学者を確保する。
2. 修学・学生支援等の取組を強化し、収容定員を充足させる。
3. 内部進学者の確保に向けて、系列校との連携を強化する。

02 教育

社会構造の変化と学びの形態の多様化が加速度的に進むなかで、新たな時代の変化に対応できる実践型人材の輩出を目的に、建学の精神である「敬天愛人」を教育の支柱とし、個別最適な学びを実現するため「学習者本位の教育」を高度化して学生の付加価値向上を果たすことを最重要課題とする。その課題に対応すべく、自校教育の推進、内部質保証の実質化、新たな時代の変化に対応する教育の展開に取り組む。

計

画

I. 「敬天愛人」教育の推進

1. 建学の精神「敬天愛人」による人格の涵養を基盤とした自校教育を推進し、学生が自らの可能性を最大限に伸ばすことができる教育を行う。

II. 内部質保証の実質化

1. 学生の個別の学習成果の可視化を基軸に据えた内部質保証の実質化に取り組む。
2. 主体的学びに対応した学習支援を充実させる。
3. 学長の迅速な意思決定を可能とする学長補佐体制を強化する。

III. 新たな時代の変化に対応する教育の展開

1. AIを活用できる人材の養成を目指した学部等の改革に取り組み、特色・魅力ある学部教育を推進する。
2. ICTの活用により教育の質的転換と授業運営力の向上を図る。
3. 本学における教育研究活動を通して、SDG s（持続可能な開発目標）の達成に貢献する人材を育成する。

03 就職・進路・学生等支援

キャリア教育と就職支援の接続によって、教職協働による総合的な就職支援体制を構築し、学生が卒業後に実社会で活躍できる知識・スキル・能力を身に付け、希望する就職を実現させることで学生の満足度向上を図る。就職実績を上げることで、産業界や一般社会からの大学の評価がさらに高まっていくことを目指し、キャリア教育と就職支援の充実に取り組む。また、多様な問題を抱える学生の総合的なサポート体制を構築し、学生生活の充実・活性化を支援する。

計

画

I. キャリア教育と就職支援の充実

1. 学生の就職活動をサポートし、就職先の質等に関する学生満足度を向上させる。
2. 企業から求められる人材育成に向けて、教育で身に付けた能力の可視化を進める。
3. 地域の産業界や卒業生と連携したキャリア教育を実施する。
4. 学生の就職先志向や本学の教育に適合した企業の抽出等により、全学連携して就職先企業の開拓を行う。

II. 学生生活の充実・活性化の支援

1. 国の高等教育の無償化制度の対象学生への円滑な給付を目指すとともに、本学の奨学金制度の充実を図る。
2. 学生の心身の健康を守る支援、健康管理、個人情報管理等の多様な取組により、学生生活を安心・安全に過ごせるための支援体制の更なる改善を図る。

04 研究

大学全体の研究力の底上げが必要である。そのため、産学官連携の推進、研究環境の整備を図り、特色ある研究の活性化に繋げていくことを目指して、研究の高度化や研究成果の地域還元に取り組む。

計 画

I. 研究の高度化

1. 研究活動支援体制を整備し、競争的資金に関する情報収集や教員への情報提供を図り、外部資金の獲得実績を向上させる。

II. 研究成果の地域還元

1. 研究情報をステークホルダーに発信する。
2. 社会実装（実用化）を通じた研究成果の地域還元を目指す。

05 地域連携・社会貢献

大学の持つ資源を活用し、国や人種、性別などのボーダーを超えた様々な人との協働、産学官の連携を推進し、高い実務能力を備えた地域社会の中核となる人材を育成する。大学と地域の連携により、地域の活性化・雇用の創出に繋がっていくように、地域の課題解決に貢献できる「地域に必要とされる教育拠点」となることを目指して、地域連携による人材の育成や地域連携の拠点づくりに取り組む。

計

画

I. 地域連携による人材育成

1. 本学の学生が地方公共団体、産業界、他大学等との地域における多様な学習機会を正課内外に拡大・進展させることで、地域連携を推進する能力を備えた人材を育成する。

II. 地域連携の拠点づくり

1. 大学、短大、高校が同一キャンパス内に存在する強みを生かし、地域との交流拠点を想定した組織の機能強化を図る。
2. 地域連携推進による学外関係者との交流を図る。

2. 敬愛短期大学

01 広報・募集活動

本学において学生の確保は喫緊の課題である。一定数以上の志願者・入学者を確保するため、広報及び募集活動の質的向上と、学生の安定的な確保に取り組み、受験生をはじめとするステークホルダーから選ばれる短大となることを目指す。

計

画

I. 広報及び募集活動の質的向上

1. 本学の入試制度と親和性の高い受験生とその関係者に対する情報発信力を高める。
2. 高校訪問、オープンキャンパス、模擬授業、学校説明会等の募集活動の再構築を図る。

II. 学生の安定的な確保

1. 年内入試を重視し、一定数以上の志願者・入学者を確保する。
2. 修学・学生支援等の取組を強化し、収容定員を充足させる。
3. 内部進学者の確保に向けて、系列校との連携を強化する。
4. 「離職者等再就職訓練事業」による訓練生の受け入れや男子学生等の、多様な入学者を増やす。

02 教育

社会構造の変化と学びの形態の多様化が加速度的に進むなかで、新たな時代の変化に対応できる実践型人材の輩出を目的に、建学の精神である「敬天愛人」を教育の支柱とし、個別最適な学びを実現するため「学習者本位の教育」を高度化して学生の付加価値向上を果たすことを最重要課題とする。その課題に対応すべく、自校教育の推進、内部質保証の実質化、短大の特色を活かした教育の展開に取り組む。

計 画

I. 「敬天愛人」教育の推進

1. 建学の精神「敬天愛人」による人格の涵養を基盤とした自校教育を推進し、学生が自らの可能性を最大限に伸ばすことができる教育を行う。

II. 内部質保証の実質化

1. 学生の個別の学習成果の可視化を基軸に据えた内部質保証の実質化に取り組む。
2. 主体的学びに対応した学習支援を充実させる。
3. 学長の迅速な意思決定を可能とする学長補佐体制を強化する。

III. 短大の特色を活かした教育の展開

1. 入学後の学びが順調に進むことを意識した入学前教育と初年次教育の充実を図る。
2. 「敬愛スタートアップゼミ」（初年次教育）、「敬愛ブラッシュアップゼミ」（専門、応用教育）として展開しているゼミ教育の高度化を図る。
3. 本学における教育研究活動を通して、SDG s（持続可能な開発目標）の達成に貢献する人材を育成する。

03 就職・進路・学生等支援

キャリア教育と就職支援の接続によって、教職協働による総合的な就職支援体制を構築し、学生が卒業後に実社会で活躍できる知識・スキル・能力を身に付け、希望する就職を実現させることで学生の満足度向上を図る。就職実績を上げることで、一般社会からの短大の評価がさらに高まっていくことを目指し、キャリア教育と就職支援の充実に取り組む。また、多様な問題を抱える学生の総合的なサポート体制を構築し、学生生活の充実・活性化を支援する。

計 画

I. キャリア教育と就職支援の充実

1. 公立保育所等への就職支援を強化する。
2. 就職活動のサポートに対する学生満足度を向上させる。
3. 学生に付加価値を付けることを目的に、各種の資格取得を奨励する。

II. 学生生活の充実・活性化の支援

1. 国の高等教育の無償化制度の対象学生への円滑な給付を目指すとともに、本学の奨学金制度の充実を図る。
2. 学生の心身の健康を守る支援、健康管理、個人情報管理等の多様な取組により、学生生活を安心・安全に過ごせるための支援体制の更なる改善を図る。

04 研究

短大全体の研究力の底上げが必要である。そのため、産学官連携の推進、研究環境の整備を図り、特色ある研究の活性化に繋げていくことを目指して、研究の高度化や研究成果の地域還元に取り組む。

計 画

I. 研究の高度化

1. 研究活動支援体制を整備し、競争的資金に関する情報収集や教員への情報提供を図り、外部資金の獲得実績を向上させる。

II. 研究成果の地域還元

1. 研究情報をステークホルダーに発信する。
2. 社会実装（実用化）を通じた研究成果の地域還元を目指す。

05 地域連携・社会貢献

短大の持つ資源を活用し、国や人種、性別などのボーダーを超えた様々な人との協働、産学官の連携を推進し、高い実務能力を備えた地域社会の中核となる人材を育成する。短大と地域の連携により、地域の活性化・雇用の創出に繋がっていくように、地域の課題解決に貢献できる「地域に必要とされる教育拠点」となることを目指して、地域連携による人材の育成や地域連携の拠点づくりに取り組む。

計

画

I. 地域連携による人材育成

1. 本学の学生が地方公共団体、産業界、他大学等との地域における多様な学習機会を正課内外に拡大・進展させることで、地域連携を推進する能力を備えた人材を育成する。

II. 地域連携の拠点づくり

1. 大学、短大、高校が同一キャンパス内に存在する強みを生かし、地域との交流拠点を想定した組織の機能強化を図る。
2. 地域連携推進による学外関係者との交流を図る。

3. 千葉敬愛高等学校

01 広報・募集活動

本校において生徒の確保は喫緊の課題である。一定数以上の志願者・入学者を確保するため、広報活動の質的向上に取り組む。また、少子化や社会のニーズの変化に対応し、志願状況を鑑みながら、スクール・ミッション、スクール・ポリシーに基づいた入試を実施することで、生徒の安定的な確保に取り組む。

計

画

I. 広報活動の質的向上

1. 情報発信ツールの活用により広報活動を強化する。

II. 生徒の安定的な確保

1. 志願状況を鑑みながら適正な入学者の安定的な確保を目指す。

02 教育

社会構造の変化と学びの形態の多様化が加速度的に進むなかで、建学の精神である「敬天愛人」を教育の支柱とし、「敬天愛人精神にあふれた人間の育成」「主体的に学び自ら課題を解決できる人材の育成」「夢と志を持ち世界に通用する人材の育成」を教育目標に掲げ、自校教育の推進、質の高い教育の実現に取り組む。

計 画

I. 「敬天愛人」教育の推進

1. 建学の精神「敬天愛人」による人格の涵養を基盤とした自校教育を推進し、生徒が自らの可能性を最大限に伸ばすことができる教育を行う。

II. 質の高い教育の実現

1. 教育の質の向上に向けた質保証のためのサイクルを確立する。
2. ICTの活用、教員研修の充実等により授業力の向上を図る。
3. 自らの力で生き方を選択していくことができるキャリア教育を行う。
4. 本校における教育活動を通して、SDG s（持続可能な開発目標）の達成に貢献する人材を育成する。

03 就職・進路・学生等支援

変化の激しい社会を主体的に生きるための確かな学力を育成し、生徒それぞれの希望進路実現に向けたきめ細かな指導や進路支援体制の強化を図ることで、中学生やその保護者には選ばれる高校となることを目指す。

計 画

I. 進路支援の強化

1. 生徒それぞれの進路実現を目指してきめ細やかな指導を行うとともに、進路支援体制の強化を図る。
2. 内部進学者の確保に向けて、大学・短期大学との連携を強化する。

4. 敬愛学園高等学校

01 広報・募集活動

本校において生徒の確保は喫緊の課題である。一定数以上の志願者・入学者を確保するため、広報活動の質的向上に取り組む。また、少子化や社会のニーズの変化に対応し、志願状況を鑑みながら、スクール・ミッション、スクール・ポリシーに基づいた入試を実施することで、生徒の安定的な確保に取り組む。

計

画

I. 広報活動の質的向上

1. 情報発信ツールの活用により広報活動を強化する。

II. 生徒の安定的な確保

1. 少子化対策や社会のニーズに応え、適正な入学者の安定的な確保を目指す。

02 教育

社会構造の変化と学びの形態の多様化が加速度的に進むなかで、建学の精神である「敬天愛人」を教育の支柱とし、建学の精神の校風樹立を保護者、地域と連携しながらすべての領域で推進し、高い知性と倫理観を備えた心身共に健康なグローバル社会で活躍できる人材を育成する。その目標に向けて、自校教育の推進、質の高い教育の実現に取り組む。

計

画

I. 「敬天愛人」教育の推進

1. 建学の精神「敬天愛人」による人格の涵養を基盤とした自校教育を推進し、生徒が自らの可能性を最大限に伸ばすことができる教育を行う。

II. 質の高い教育の実現

1. 教育の質の向上に向けた質保証のためのサイクルを確立する。
2. ICTの活用、教員研修の充実等により授業力の向上を図る。
3. 自らの力で生き方を選択していくことができるキャリア教育を行う。
4. 本校における教育活動を通して、SDG s（持続可能な開発目標）の達成に貢献する人材を育成する。

03 就職・進路・学生等支援

変化の激しい社会を主体的に生きるための確かな学力を育成し、生徒それぞれの希望進路実現に向けたきめ細かな指導や進路支援体制の強化を図ることで、中学生やその保護者には選ばれる高校となることを目指す。

計 画

I. 進路支援の強化

1. 生徒それぞれの進路実現を目指してきめ細やかな指導を行うとともに、進路支援体制の強化を図る。
2. 内部進学者の確保に向けて、大学・短期大学との連携を強化する。

5. 認定こども園敬愛短期大学附属幼稚園

01 広報・募集活動

本園において園児の確保は喫緊の課題である。一定数以上の入園児を確保するため、広報・募集活動の質的向上を図り、幼稚園の特色を効果的に広報し、園児の安定的な確保に取り組む。

計

画

I. 園児の安定的な確保

1. 様々な活動を通じて保護者に対する本園の理解度の浸透を図る。
2. 情報発信ツールの活用により広報活動を強化し、入園児の定員を確保する。

02 教育

社会構造の変化と保育に対するニーズの多様化が加速度的に進むなかで、建学の精神である「敬天愛人」を教育の支柱とし、新たな時代を力強く生き抜く子どもたちを育てるため、幼児期に必要な資質を高めるとともに、特色ある教育や面倒見の良い保育を展開する。その目標に向けて、自校教育の推進、質の高い保育の実現に取り組む。

計

画

I. 「敬天愛人」教育の推進

1. 建学の精神「敬天愛人」による人格の涵養を基盤とした自校教育を推進し、園児が自らの可能性を最大限に伸ばすことができる教育を行う。

II. 質の高い保育の実現

1. 園児一人一人に応じた適切な保育の充実を図る。
2. 高い幼児教育力を備えた職員の養成を図る。

6. 学校法人部門

06 人と組織

学園の永続的な発展のために組織ガバナンスの強化に取り組む。また、働く者が成長し、それを活かせる組織作りを目指し、教職員一人一人の能力の向上と教職協働を推進するための仕組みを構築し、強靱で働きがいのある組織づくりに取り組む。

計 画

I. 組織ガバナンスの強化

1. 「中期計画」及び「年度事業計画」の達成目標や進捗管理について客観的点検を行い、PDCAサイクルによる経営管理システムの実質化を図る。
2. 寄附行為、諸規程を改正し、私立学校法の趣旨に則って、理事・理事会、監事及び評議員・評議員会の建設的な協働関係や相互牽制の体制を確立する。
3. 内部統制システムを構築し、適切な業務運営を図る。
4. 本学園における広義のステークホルダーに対して、分かりやすく積極的に情報を公表していく。また、積極的な情報公表により、ステークホルダーとの信頼関係の構築に努める。

II. 強靱で働きがいのある組織づくり

1. 適正な人事配置、FD・SDの推進、会議体・委員会の効率化、生成AIを活用した業務の効率化等により、強靱・柔軟な組織、人づくりを目指す。
2. 働き方改革への対応を推進する。
3. 防災・危機管理のための体制を整備する。

07 財務・施設設備

学園の永続的な発展のために組織ガバナンスの強化とともに、財政基盤の安定と強化に取り組む。また、財政基盤を安定させ、教育研究活動への適切な財政的対応とともに、将来の設備投資に対する資金備蓄を図り、教育研究環境の整備に取り組む。

計 画

I. 財政基盤の安定と強化

1. 学納金収入、補助金収入等の基幹収入を安定的に確保する方策を確立する。
2. 毎年度、学校法人の基本金組入前当年度収支差額及び経常収支差額の黒字化を実現する。
3. 毎年度、各設置校の経常収支差額の黒字化を実現し、「学費適正還元」の合理性を高める。

II. 教育研究環境の整備

1. 将来的な設備投資に備えた資金の備蓄を行う。
2. 稲毛キャンパス整備事業を推進する。
3. 長期設備投資計画を策定する。

08 学園創立100周年

本学園は2026年（令和8年）に創立100周年を迎える。これまで築き上げてきた歴史と伝統、各設置校が積み重ねてきた教育成果を基に、次なる100年に向けて更なる学園の発展を目指す。創立100周年を記念した事業として寄付金の募金事業を展開し、キャンパス整備をはじめとした教育研究環境の整備に充当する。

計

画

I. 学園創立100周年記念事業の展開

1. 学園創立100周年の寄付金について、募金目標額 1 億円を達成する。
2. 学園創立100周年記念式典等の記念行事を行う。
3. 大学の教育研究成果を地域に還元する催しを開催する。

IV. 中期計画'24 の取組の成果

中期計画'24 における主な取組の成果は以下のとおりです。

敬愛大学

◎2021年度（令和3年度）：国際学部こども教育学科を「教育学部」に改組した。

入学定員：72名 収容定員：219名

◎2021年度（令和3年度）：大学基準協会による大学認証評価を受審し、「大学基準に適合」と認定された。

◎2021年度（令和3年度）：副専攻「AI・データサイエンス」が、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」において、「リテラシーレベル」の認定を受けた。

◎2022年度（令和4年度）：副専攻「AI・データサイエンス」が、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」において、「応用基礎レベル」の認定を受けた。

◎2023年度（令和5年度）：2024年度（令和6年度）の経済学部の入学定員増が認可された。

入学定員：225名 → 260名

◎2024年度（令和6年度）：次代のニーズに対応した新学部「情報マネジメント学部」の2025年度開設が認められた。入学定員：50名 収容定員：200名

敬愛短期大学

◎2020年度（令和2年度）：短期大学基準協会による機関別評価を受審し適格の認定を受けた。

◎2020年度（令和2年度）：短期大学創立70周年を記念して記念式典等を挙行了した。

◎2021年度（令和3年度）：初等教育コースを廃止し、入学定員を200名から150名に変更した。

◎2021年度（令和3年度）：初年次教育として「敬愛スタートアップゼミ」を設定した。

◎2022年度（令和4年度）：専門、応用教育として「敬愛ブラッシュアップゼミ」を設定した。

◎2023年度（令和5年度）：2024年度の稲毛キャンパスへの移転を踏まえた学生募集活動により、2024年度の入学者は、入学定員150名に対し160名の入学者となり、入学定員を充足した。

千葉敬愛高等学校

- ◎2020年度（令和2年度）：学校評価委員会を立ち上げ、外部委員からの評価をいただいた。
生徒に対する内部評価アンケートの結果、生徒の学校に対する満足度は87.7%であった。
- ◎2021年度（令和3年度）：ICT教育の推進を図るため、全教室にプロジェクター型電子黒板及びWi-Fiを完備した。
- ◎2021年度（令和3年度）：スクール・ミッション（教育理念、教育目標）、スクール・ポリシー（入学から卒業までの教育活動の指針）を策定した。
- ◎2022年度（令和4年度）：1年生より生徒端末を用いた授業を実施した。ICT支援員を配置して、魅力ある授業の創造に努めた。
- ◎2023年度（令和5年度）：併願推薦を廃止した新入試制度を実施し、適正な入学者の確保に努めた。
- ◎2023年度（令和5年度）：3年ぶりにオーストラリア修学旅行を実施した。また、ケアンズの語学研修やシドニー姉妹校訪問などの短期留学も再開した。

敬愛学園高等学校

- ◎2021年度（令和3年度）：教育改革に対応してICT機器の充実を図り、活用・実践を進めた。
- ◎2021年度（令和3年度）：スクール・ミッション（教育理念、教育目標）、スクール・ポリシー（入学から卒業までの教育活動の指針）を策定した。
- ◎2022年度（令和4年度）：1年生全員にクロムブックを所持させ、授業等で活用した。教職員はICTを活用した授業研究に努めた。
- ◎2022年度（令和4年度）：ニュージーランド長期留学を再開した。
- ◎2023年度（令和5年度）：進学コースのB推薦（併願推薦）を停止した新入試制度を実施し、適正な入学者の確保に努めた。
- ◎2024年度（令和6年度）：「Inage Image」を6年間継続して実施するなど、探究型学習による生徒の能力向上が図られた。

認定こども園敬愛短期大学附属幼稚園

- ◎2020年度（令和2年度）：未就園児ルームの取組等が園児獲得に繋がった。
- ◎2021年度（令和3年度）：園内研修を継続して行い、保育者の保育力の向上を図った。
- ◎2022年度（令和4年度）：保護者へのアンケートを実施し、高い満足度を得た。学校評議員会を開催し、客観的な評価に基づき経営の向上を図った。
- ◎2023年度（令和5年度）：ホームページを適宜更新するなどして園児の確保に努めた結果、2024年度の入園児数は36名となった。

学園の人事・財務・施設設備・組織運営

- ◎2020年度（令和2年度）：事務職員を対象に出退勤管理システムを導入した。
- ◎2021年度（令和3年度）：敬愛学園高校新アリーナの建設工事に着工した。
- ◎2022年度（令和4年度）：敬愛学園高校新アリーナが7月末に竣工した。
- ◎2022年度（令和4年度）：大学・短期大学新教育棟建設工事を6月に着工した。
- ◎2022年度（令和4年度）：学校法人千葉敬愛学園ガバナンス・コードを策定し、9月に学園のホームページで公表した。
- ◎2023年度（令和5年度）：新たな学びの拠点となる大学・短期大学新教育棟が完成し、2024年4月から供用を開始した。
- ◎中期計画期間中の「基本金組入前当年度収支差額」は、毎年度黒字を計上した。
 - ・2020年度（令和2年度）：222百万円
 - ・2021年度（令和3年度）：241百万円
 - ・2022年度（令和4年度）：123百万円
 - ・2023年度（令和5年度）：285百万円
- ◎中期計画期間中の「経常収支差額」は、毎年度黒字を計上した。
 - ・2020年度（令和2年度）：199百万円
 - ・2021年度（令和3年度）：274百万円
 - ・2022年度（令和4年度）：318百万円
 - ・2023年度（令和5年度）：293百万円